



旭市長

伊藤忠良

旭市の発展に全力

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには健やかに新しい年をお迎えになられたことと拝察し心からお祝いを申し上げます。今年は子年であります。ネズミ算という例えもあるように、その繁殖力は誠に旺盛であり、生命力に溢れています。私たち旭市にあっても一日も早く環境を整え、子どもたちの声が市中に響き渡る、子どもたちの元気な姿で溢れる旭市にしたい。そのきっかけを作る年にしたい、そう願っています。

旭市には充実した医療と福祉があります。診療圏人口百万人の基幹病院旭中央病院は二十四時間、常に専門医が手術に当たれる態勢を整えており、市民の安心度はこの上なく高いものであります。中央病院へは救命救急棟に六万一千人、入院に三十三万一千人、外来に八十六万人の皆さんが来院し、合わせて千八百人の勤務者、附属看護専門学校、特養老人ホーム東総園、シルバークエアセンター等付属施設、見舞い客、さまざまな職種がそこに関わり、中央病院が旭市にもたらす経済効果は計り知れません。

温暖な気候、災害の少なさ、広大な耕地等の利点を生かして農業の産出額は県内一位、二位の水揚量の漁業と合わせて首都圏随一の安定した食材供給基地を形成しております。中心市街地の活性化という大きな課題を抱える商業も総体的には商圏人口二十八万人、その集客力は県内有数のものであり、サンモールでは六面のスクリーンを有するシネマが三月に

オープン予定であり、電気店やスーパー等の出店計画もあるとのことであります。また、雇用の場確保の上でも早い段階に優良企業で埋めたい、と願う工業団地も引き合いが増加してきており、何とか誘致につなげるよう、より一層努力したいと思っています。

こうした産業の動きと合わせ、市民の行政への協力、参加が一段と大きくなりました。防災、防犯活動、独居家庭への見守り、配食、各施設への慰問、中央病院での案内等の福祉活動、海岸、公園などの清掃、ゴミゼロ運動への参加等清掃活動、新市のまちづくりに係る審議会、協議会をはじめさまざまな角度から政策面での助言も頂戴しております。こうした市民の温かい支援の下、市政は順調な活動を展開しております。小中学校の耐震補強、中央病院や工業団地へのアクセス道の整備など、合併による有利な財源を活用した取り組み、市外から大勢の交流人口を招くための多彩なイベント、生涯健康で長寿社会を楽しんでいただくための施設整備や催し、中央病院を核とする最先端医療地域としての充実整備、昨年、生活科・総合的学習教育学会、教育工学研究協議会と二度の全国大会を招致するなど、教育界も大変な熱を帯びており、より質の高い義務教育が期待されます。

新市が誕生して七月一日で満三歳、今年も旭市の発展に全力で取り組んでまいります。

